

図書館だより 2月号

岡垣サンリーアイ図書館発行 2026.2 No.350



オススメの新着図書

【一般向け】

『なぜ鬼は虎皮のパンツをはくのか』

石井 公成／著 法蔵館



サウナ、罰としての便所掃除、鬼のパンツ…。ぜんぶ仏教がルーツ!? 仏教の多様な面、意外な事柄や興味深い逸話などを紹介する。

【一般向け】

『贈り物の本』

牟田 都子／編 亜紀書房



「贈り物」をテーマに、作家・ミュージシャン・俳優・漫画家など37人が、忘れられない記憶を綴った書き下ろしエッセイ集。

【児童向け】

『大人も知らない? 仏像のふしぎ事典』

田中 ひろみ／著 マイクロマガジン社

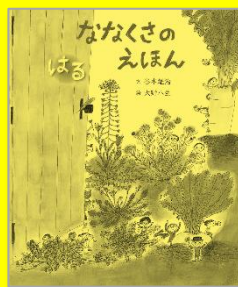


仏像は、祈る心を形にしたもの。仏像について、拝み方や種類、ポーズ・持ち物の意味などを、イラストでわかりやすく解説する。

【児童向け】

『ななくさのえほん はる あき』

谷本 雄治／文 大野 八生／絵 岩崎書店



春と秋の七草、それぞれの植物としての特徴はもちろん、食べ方、遊び方など、七草にまつわる様々な文化を楽しめる文と美しい絵で紹介♪

読書会通信

【12月読書会より】

『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』 村上 春樹／著 文藝春秋

多崎つくるとは、高校時代の親友四人から突然理由も告げられず拒絶され、その心の傷を長く引きずって生きている。後に付き合い始めた沙羅という女性に促され、彼は過去と向き合うために彼らに会いに行く。その過程が巡礼になぞらえられている。人から突然拒絶され、その理由も分からないまま傷を抱え続ける姿は現実的で、共感できる部分もあった。村上春樹特有の文学的・詩的な表現が多用されており、表現を味わう作品だと感じた。

〔竹川 寿美子〕

